

ICTを活用した放牧技術研修会 概要

1. 日時：令和2年11月9日（月）14：00～16：30
2. 場所：熊本市市民会館シアーズホーム夢ホール 大会議室
3. 主催：九州農政局、（一財）九州オープンイノベーションセンター、（一社）日本草地畜産種子協会
4. 内容：

【技術開発・実証の紹介】

- ① AIやICTを活用した周年親子放牧による収益性の高い子牛生産技術の開発
熊本県農業研究センター 草地畜産研究所 津田 健一郎 氏
- ② スマート農業技術を活用した中山間地における放牧牛監視システムの実証
熊本県農業研究センター 草地畜産研究所 森 将臣 氏
- ③ JA菊池をはじめとした各地域でのICTを活用した放牧実証の成果
M・S・K株式会社 水野 尚淑 氏

【情報提供】

- ① 農研機構で最近育成された放牧向け草種・品種について
農研機構 九州沖縄農業研究センター 飼料作物育種グループ 荒川 明 氏
- ② 放牧畜産基準認証制度及び飼料作物優良品種の紹介
一般社団法人 日本草地畜産種子協会 布野 秀隆 氏

5. 参集範囲：農業者、畜産関係団体、地方公共団体、研究機関等
6. 参加人数：100名程度

技術開発・実証の紹介では、個体識別タグや中継機等のICT機器を活用した放牧地での発情発見予測、放牧牛の位置情報、牛の安否確認等の技術及び実証をご紹介いただきました。実証地は阿蘇地域であり、広大な面積、通信環境が悪い等の条件でも活用可能だと知ることができました。



技術紹介後は、導入を検討している参加者や地域への普及を考えている参加者を中心に、バッテリー交換頻度やデータの精度といった各機器の特徴や導入コスト等、活発な意見交換が行われました。

土地条件や経営環境に合わせて発展してきた様々な放牧方式・体系にどのように組み合わせていくのか等の検討が不可欠であり、放牧×ICTが実現すれば、更なる省力化や高収益な経営が可能になると実感することができました。

